

中学1年生

仲田 恵子・渡辺 絵美・若山 晃治
川合 勇治・瀬古 淳祐

1 目的

中学1年では、テーマ「生き方を探る」およびサブテーマ「興味と職業を探究する」のもと、自身の興味や周りの人々とのコミュニケーションをきっかけに、様々な生き方や職業について調べ、多様な生き方があることを学ぶ。さらに、特定の職業についての調べ学習を通して、将来どのような職業につきたいか、どのように生きていきたいかといった自分自身の生き方を見つめることが目的である。また、個人テーマを設定し、調べ学習やフィールドワークを行なうことで、資料や文献の探し方、インターネットの活用方法、依頼状やお礼状の書き方、アポイントの取り方、学習内容のまとめ方といった、中高6年間を通して取り組む総合人間科の探究学習に必要な能力を育成する。

2 実施方法

興味ある歴史上の人物の伝記、家族や教育実習生といった身近な人々へのインタビュー、友人とのコミュニケーションなどをきっかけに、自分の興味に向き合い、探究する職業を設定して、調べ学習およびフィールドワークを行った。また、その過程でわからなかったことや新たに興味をもったことをより詳しく調べ、学習を深めるとともに、それらをまとめ、発表を行った。フィールドワークの実施においては、特に、家族や実習生に行ったインタビューを振り返りながら質問事項を作成し、有意義なインタビュー方法を考えるなど、これまでの活動を生かし、準備を進めた。また、訪問先を探し、各自でアポイントを取得することで、電話の掛け方、依頼状やお礼状の作成方法、メモの取り方などを学んだ。1年の最後にはこれらの探究活動を研究集録やポスターにまとめ、他の生徒に報告する中で、研究成果のまとめ方や、発表の仕方を学んだ。

職業の探究に加え、クラスで行ったよいところ探しの自己紹介ゲーム、伝記によるビブリオバトル、教育学部の窪田先生およびよつば相談室と合同で行った「こころの授業」、その他学級活動や道徳の授業など、様々な場面を通して、多様なものの見方や考え方の違いを知るとともに、生き方の多様性を学んだ。

実施内容一覧

前期

実施日	内容
4月12日	「今のわたし 中一の自分」*
4月13日	よいところ探しの自己紹介ゲーム* ガイダンス、保護者インタビューの準備
4月14日	保護者インタビュー
4月17日	学級目標決め*
4月20日	「保護者インタビュー」発表
4月24日	「自分で考え実行し責任を持つ」*
4月27日	「伝記を読んで生き方を考えよう」について
5月1日	「家族へのインタビュー」について
5月8日	伝記ビブリオバトル 「家族へのインタビュー」発表
5月18日	教育実習生へのインタビュー
5月25日	教育学部 窪田先生・よつば相談室合同授業 「こころの授業」*
5月29日	「自分を見つめ個性を伸ばす」*
6月1日	職業調べ学習
6月5日	「礼儀の意義を理解し適切な言動を」*
6月8日	職業調べ学習
6月19日	「温かい人間愛の精神と思いやりの心を」*
6月26日	職業マップ作り（タブレットの使い方）
6月29日	演劇コンクールへの道のり*
7月6日	「興味ある職業についてのレポート」について スクラップブック作り
9月7日	「スクラップブック」発表
9月21日	「頼み方」について*
9月25日	「興味ある職業についてのレポート」発表
9月28日	「断り方」について*

後期

実施日	内容
10月12日	フィールドワークに向けて 「アポ取り」について
10月19日	「相手の善意に答えよう」* 訪問先アポ取り
10月23日	訪問先アポ取り
10月26日	依頼状作成
10月30日	フィールドワーク事前指導

11月2日	フィールドワーク事前学習
11月6日	フィールドワーク事前学習
11月9日	フィールドワーク
11月13日	お礼状作成 フィールドワーク発表会準備
11月16日	フィールドワーク発表会準備 研究集録下書き
11月20日	フィールドワーク発表会
11月27日	研究集録下書き
12月5日	研究集録清書
12月7日	研究集録清書
12月11日	研究集録清書
1月11日	ポスターレイアウト作成
1月18日	ポスター発表原稿作成
1月22日	ポスター作成
1月25日	ポスター作成
2月1日	ポスター発表
2月15日	集録ビブリオバトル
2月22日	総合人間科まとめ
3月8日	高校3年生からのメッセージ

※一部、道徳・学級活動の内容を含む

(1) 年度初めの授業

総合人間科の授業は、授業参観に合わせて行った保護者インタビューから始まった。この授業では、事前に生徒が各自で考えてきた生き方に関する質問を、友人の保護者にインタビューをするという内容であった。この最初のインタビューに向け、道徳の授業「今のわたし 中一の自分」、および、よいところ探しの自己紹介ゲームを行った。前者では、中学校に進学した時点での自分の好きなことや目標を書き出し、後者では、先に書き出した内容をヒントに、これから1年間ともに学ぶ仲間へ質問を行った。このとき、生徒へは直前の質問の答えをさらに掘り下げようような質問をするように呼びかけた。この活動を踏まえ、保護者への質問を考えることで、答えが単発で終わってしまわないような質問を考えたり、保護者の答えからさらに質問を続けたりするなど、インタビュー時間を有意義に使う具体的な方法を学ぶことができた。

(2) インタビュー

フィールドワークに行き、実際に働いている方にインタビューをすることを踏まえ、前期の間に友人の保護者、家族、教育実習生へと3回のインタビューを行った。友人の保護者へのインタビューは、自分で質問を考え、インタビューをする最初の機会、質問作りや質問の仕方を練習した。また、保護者の方から、経験に基づくエピソードや考え方を伺うことで、1年間を通して自

身の生き方を見つめていくためのきっかけとなった。

ゴールデンウィーク中には両親や祖父母、親戚など、家族にインタビューを行い、身近な大人の生き方や職業を見つめた。また、教育実習期間には学年を担当した実習生に、グループでインタビューを行った。同時に、実習生から、自身の進路をどのように決め、そのために中学生の間にどのようなことができるのかアドバイスを聞いた。

(3) ビブリオバトル

様々な考え方を知るとともに、学んだことを仲間に発表する機会として前期は伝記を用いて、後期は研究集録を用いてビブリオバトルを行った。

伝記を用いたビブリオバトルでは、生徒がそれぞれ歴史上の人物の伝記を持ち寄ることで、自分がどのようなことに興味があるのか発見するきっかけとなり、また様々な人々の生き方を知ることができた。さらに、単に伝記の内容を発表するだけでなく、ビブリオバトル形式で紹介し合い、チャンプ本を決めることで、自分の発表がわかりやすく伝わるよう心がけるとともに、お互いの発表により真剣に耳を傾けるよう促した。

研究集録を用いたビブリオバトルでは、同じ学年の仲間が書いた集録の原稿を1つ決め、ビブリオバトルを行った。前期に一度、伝記を用いてビブリオバトルを行っていたことで、スムーズに授業を行うことができた。また、個人では集録の内容を読む機会があるかもしれないが、授業の中で自分や友人の成果を互いに確認し合う機会を設けることができ良かったと感じる。

(4) ICT機器の活用

職業の調べ学習時に、1人1台、タブレットを用いてインターネット上の情報を収集し、ネットを用いた情報の検索方法を学んだ。また、ネット上の記事の引用方法についても学習した。

(5) フィールドワーク

夏休み中に個人テーマを設定し、調べる職業を決め、フィールドワーク候補を探した。夏休み後は、探した訪問先にアポイントの連絡をとった。アポイントが取れると、自身で住所を調べ、依頼状を書いた。同時に訪問先について調べ学習を進め、書籍やネット上からは簡単に答えが得られないような質問を複数考えた。

フィールドワーク当日は、生徒が1人で訪問先に伺い、インタビューを行った。多くの生徒がアポイントや質問作りに苦勞をしたが、フィールドワークでは実際の職場を見学し、普段見たり聞いたりすることができないようなことを知ることができ、生徒1人ひとりに多くの収穫があった。

(6) 探究活動のまとめ

事前学習とフィールドワークで学んできたことを、研究集録とポスター、2種類の方法でまとめた。

研究集録では「テーマ設定の理由」、「事前学習の内容」、「フィールドワークで学んだこと」、「今後の生活で生かせること」という項目に従い、これまでの学習内容をまとめた。「テーマ設定の理由」では、今まで生きてきた中でどのようなきっかけがあり、今回のテーマを設定したのかを、具体的に書くように促した。さらに、「フィールドワークで学んだこと」は、一問一答形式ではなく、自身が感じたことを交じえながら書くことを意識させた。また、完成した研究集録を用いビブリオバトル形式の発表を行った。

ポスターの作成では、文章のみでなく、グラフやイラストなど、より視覚的にわかりやすくまとめることを目標とした。作成後は、まとめたことを決められた時間の中で説明すること、ポスターの内容を読み上げるのではなく、自分の言葉で説明することを意識しながら、生徒同士で発表を行った。

(7) 道徳・学級活動とのつながり

「生き方を探る」とうテーマを踏まえ、年度当初における授業のように、いくつかの場面で道徳や学級活動との連携を重要視した。例えば、アポイントの依頼前に「頼み方」や「断り方」について考えた。また、普段の道徳や学級活動も、多様な考え方を知り、自分自身の生き方を見つめる機会となるよう意識して授業を行った。

(8) 教育学部との連携

昨年度に引き続き、教育学部の窪田先生および本校に設置されているよつば相談室の学生と協力しながら、合同授業である「こころの授業」を実施した。「こころの授業」ではものの見方の変化によるストレス対処法、災害時における平常時と異なるストレス反応およびその対処法を学んだ。また、本年度は5月に実施したことで、クラスや学年の人間関係作りとしても効果的であった。

3 検証評価

総合人間科の授業内にとどまらず、道徳や学級活動での取り組みを意識しながら、自身の興味を知るとともに、多様な考えを学べるよう授業を実施した。このことは探究する職業を設定するための良いきっかけを与え、自主的なテーマ設定を促した。

クラスメイトやその保護者、自分の家族、実習生と様々な相手にインタビューを行う中で、特に質問の内容や仕方について工夫することを意識しながら、インタビューの方法を学んだ。結果、フィールドワークでのインタビューでは生徒が自身で様々な質問を考え、多くの

ことを知り、学ぶことができた。

発表では、「発表の仕方」、「発表内容」、「発表時間」の3項目について評価観点を設定し、発表する能力の育成・向上を目指した。発表は、事前学習の発表（「興味ある職業についてのレポート」発表）、フィールドワークの発表、1年間のまとめの発表（ポスター発表）と、学習過程に応じて段階的に行い、探究の深まりを実感しながら学習を進めた。さらに、他のクラスメイトの探究内容を知るとともに進捗具合を確認する機会ともなり、進度の統一を図ることができた。

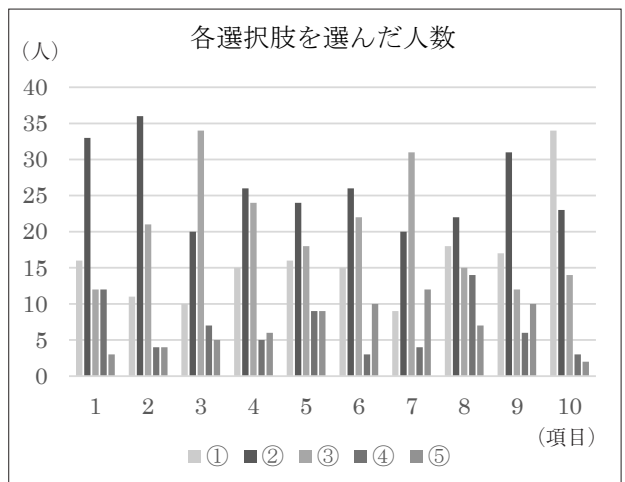
研究集録の執筆に際しては、特に「職業設定の理由」「フィールドワークでの学習内容」および「今後の課題」の項目に力を入れて執筆を行い、自身の学習課程を再確認しながら、学習内容を記録として残す意義を学んだ。

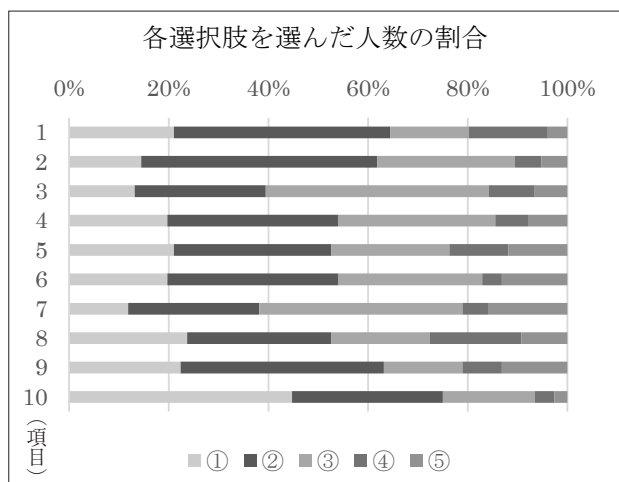
アンケートの実施

年度の終わりに1年間の総合人間科の活動を振り返り、生徒にアンケートを実施した。

アンケート項目
1. 未知のことがらへの興味（好奇心）
2. 自分から取り組む姿勢（自主性、やる気、挑戦心）
3. 周囲と協力して取り組む姿勢（協調性、リーダーシップ）
4. 粘り強く取り組む姿勢
5. 自分の考えを見つけようとする姿勢
6. 問題を立てる力（問題構成力、気づく力）
7. 問題を解決する力
8. 問題を探って明らかにしたい気持ち（探究心）
9. 考える力（洞察力、発想力、論理力）
10. 成果を発表し伝える力（レポート作成、プレゼンテーション）

選 択 肢	
①とても向上した	②やや向上した
③変わらなかった	④もともと高かった
⑤わからない	





選択肢①「とても向上した」および選択肢②「やや向上した」の合計人数が最も多かったのは「10. 成果を発表し伝える力 (レポート作成、プレゼンテーション)」であった。次いで「1. 未知のことがらへの興味 (好奇心)」、「9. 考える力 (洞察力、発想力、論理力)」、「2. 自分から取り組む姿勢 (自主性、やる気、挑戦心)」の順で多く、これらはいずれも選択肢①と②の合計の割合が60%以上であった。項目10に関しては、1年を通し様々な形で発表を行ったことが表れていると考えられる。また、項目1、2、9は自らの興味を見つめ、職業を調べる中学1年生の取り組みを反映しているように思われる。

一方で、①②の合計が最も少なかったのは「7. 問題を解決する力」、次点で「3. 周囲と協力して取り組む姿勢 (協調性、リーダーシップ)」であり、両者とも40%未満であった。項目7に関しては、探究する職業を設定し、様々な疑問から質問を考えた (「6. 問題を立てる力 (問題構成力、気づく力)」に関連) が、その答えはフィールドワークでインタビューを行い、他者から教えられたもので、自ら探究して得たものではないことに起因していると考えられる。また項目3に関しては、個人の興味を出発点として、グループではなく個別で職業を調べるという趣旨から、数値の低さが理解できる。項目7および3に関しては、次年度の総合人間科の中で、大テーマ「生命と環境」のもと、生命や環境に関する具体的な問題を各自で設定し、その答えを探究すること、また、それらを他の生徒と共有し、地球規模で問題の解決策を考えていくことで、力を育てていくことができると考える。

項目3および7以外の項目に関しては、選択肢①および②の合計の割合が50%以上であり、全体としては総合人間科の授業で期待された力を伸ばすことができたと考えられる。ただし、いずれの項目にも「③変わらなかった」、「④もともと高かった」、および「⑤わからない」と解答した生徒がおり、選択肢③や④を選ぶ生徒を減らすためには、進度が早い生徒に発展的な課題を与えた

り、研究を深めるために重要となる専門的な知識を学習する機会を設けたりするなどの工夫が必要だと考える。また、選択肢⑤に関しては、より具体的にどのような力の伸長を目標としているか生徒に対して説明していく必要があると感じる。

以下に、アンケートの各項目に対し、選択肢①および②を選んだ生徒が、どのような取り組みでそれぞれの力が向上したと感じているか、記述があったものについて集計した資料を記載する。(文責 若山晃治)

1. 未知のことがらへの興味 (好奇心)	人数
職業調べ学習	21
フィールドワーク	9
スクラップブック作り	4
夏休み課題	4
伝記を読んで生き方を考えよう	3
フィールドワーク事前学習	3
保護者へのインタビュー	2
よいところ探しの自己紹介ゲーム	1
訪問先アポ取り	1
依頼状・お礼状の作成	1
総合人間科以外の授業や活動を通して	3

2. 自分から取り組む姿勢 (自主性、やる気、挑戦心)	人数
訪問先アポ取り	16
フィールドワーク	8
職業調べ学習	5
フィールドワーク事前学習	5
研究集録の作成	4
伝記を読んで生き方を考えよう	2
よいところ探しの自己紹介ゲーム	1
保護者へのインタビュー	1
ビブリオバトル	1
スクラップブック作り	1
依頼状・お礼状の作成	1
発表	1
総合人間科以外の授業や活動を通して	4

3. 周囲と協力して取り組む姿勢 (協調性、リーダーシップ)	人数
訪問先アポ取り	5
フィールドワーク	5
教育自習性へのインタビュー	3
頼み方・断り方について	3
職業調べ学習	2
発表	2
ビブリオバトル	1
ポスターの作成・発表	1
全体を通して	1
総合人間科以外の授業や活動を通して	5

4. 粘り強く取り組む姿勢	人数
訪問先アポ取り	22
依頼状・お礼状の作成	6
フィールドワーク事前学習	5
研究集録の作成	5
インタビュー	2
フィールドワーク	1
全体を通して	1
総合人間科以外の授業や活動を通して	2

5. 自分の考え方をを見つけようとする姿勢	人数
研究集録の作成	12
フィールドワーク	4
発表	4
フィールドワーク事前学習	2
伝記を読んで生き方を考えよう	1
ビブリオバトル	1
夏休み課題	1
ポスター作成・発表	1
全体を通して	3
総合人間科以外の授業や活動を通して	2

6. 問題を立てる力（問題構成力、気づく力）	人数
フィールドワーク事前学習	10
フィールドワーク	10
研究集録の作成	6
保護者へのインタビュー	2
インタビュー	2
よいところ探しの自己紹介ゲーム	1
伝記を読んで生き方を考えよう	1
夏休み課題	1
職業調べ学習	1
ポスターの作成・発表	1
全体を通して	1
総合人間科以外の授業や活動を通して	1

7. 問題を解決する力	人数
フィールドワーク	8
フィールドワーク事前学習	4
訪問先アポ取り	3
頼み方・断り方について	2
研究集録の作成	2
教育実習生へのインタビュー	1
ポスターの作成・発表	1
全体を通して	1
総合人間科以外の授業や活動を通して	1

8. 問題を探って明らかにしたい気持ち（探究心）	人数
フィールドワーク	14
フィールドワーク事前学習	8
職業調べ学習	5
教育実習生へのインタビュー	1
夏休み課題	1
職業マップ作り	1
研究集録の作成	1
全体を通して	2
総合人間科以外の授業や活動を通して	3

9. 考える力（洞察力、発想力、論理力）	人数
研究集録の作成	14
フィールドワーク	10
ポスターの作成・発表	6
伝記を読んで生き方を考えよう	3
フィールドワーク事前学習	3
保護者へのインタビュー	2
職業調べ学習	2
頼み方・断り方について	2
全体を通して	3
総合人間科以外の授業や活動を通して	4

10. 成果を発表し伝える力（レポート作成、プレゼンテーション）	人数
ポスターの作成・発表	33
発表	16
研究集録の作成	8
スクラップブック作り	2
インタビュー	1
ビブリオバトル	1
フィールドワーク	1
総合人間科以外の授業や活動を通して	4